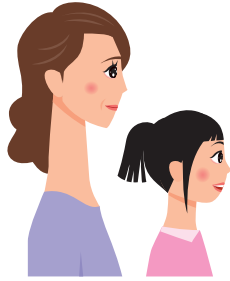


2人で乗り越える、子宮頸がん

1人より、2人。一緒に考えることが、子宮頸がんの予防につながります。

〔お話〕 西岡 留美子さん（仮名）
越前市在住、30代。結婚7年目。夫・長女・長男の4人暮らし。3年前に検診で子宮頸がんが見つかり、子宮・卵巣の全摘出手術を受ける。



第4話

母と私

「こんな病気に負けないと」
一番そばにいる女性に支えられて。



がん検診の後に受けた、精密検査。その結果を知らせる電話が鳴ったのは、実家の母がたまたま家に来ていたときでした。「家族と一緒に来院してください」。その言葉は、大変なことが自分の体に起きていると理解するには十分過ぎました。母がそばにいてくれたから、なんとか気持ちを保てましたね。電話を一人ぼっちで受けていたらと思うと、怖くてなりません。

母とは、昔からいろんな話をしてきました。生理痛のこと、出産の不安。体のことを相談するとき、女性の先輩として、母ほど頼れる存在はいません。実家は福井市で、お互いに生活があるのでなかなか会えませんが、検診で異常が見つかったとき一番に打ち明けたのは母。「そんな病気に負けないと、先生の言うことを聞いてしっかり頑張っていきなさい」。母からのアドバイスを、今でもはっきりと覚えています。

私にも、幼稚園に通う娘がいます。入院中にお見舞いに来ていたので、私が病気になったことは分かっていると思います。どんな病気になったのか。どんな治療をしたの

か。娘がもう少し大きくなったら、必ず伝えたいですね。女性として、母として、娘を守ってあげられる大切な話だと思うから。

小さい子どもが2人いるので、これからお金がかかります。出産して家族が増えたのをきっかけに、保険を整えておいて本当に助かりました。女性特有の病気や高度先進医療に対応している保険に見直していたんです。契約のとき、この保険を使うことになるとは、微塵も思っていなかったのですが。

うちの祖母も、子宮がんでした。祖母は家族に心配をかけまいと、手術の前日まで病気のことを家族に言わなかったみたいです。私には、とてもできない。不安は、一人で抱え込まなくていいと思うんです。自分のこの体は、周りの人にとっても大切だということ。自分の体にきちんと向き合い検診を受けることで、子宮頸がんは予防できること。そのことを伝えていけたらと思い、このインタビューを受けました。

※ 第1～3話は「ふくいキレイ女子大」ホームページでご覧いただけます。



www.kirei-univ.com

「ふくいキレイ女子大」は、キレイと健康を学べるカリキュラムを展開中です。

□主催／福井新聞社 □後援／福井県、福井県医師会、福井県産婦人科医師連合、福井県看護協会、福井県健康管理協会、福井商工会議所、敦賀商工会議所、武生商工会議所、大野商工会議所、小浜商工会議所、鯖江商工会議所、NPO法人オレンジティ

《お問い合わせ》 福井新聞社営業局 kirei-univ@fukuishimbun.co.jp

